

十日町市博物館 年報

— 第 7 号 —



令和 2 年度

刊行にあたって

当館は昭和54年（1979）の開館以来、「妻有地方の自然と文化」をテーマに掲げ、「雪」と「織物」と「信濃川」を柱に、博物館友の会と車の両輪のごとく協力して活動をしてきました。その中で、重要文化財「越後縮の紡織用具及び関連資料2,098点」（昭和61年指定）、同「十日町の積雪期用具3,868点」（平成3年指定）、すばらしい造形美を誇る火焰型土器を含む国宝「新潟県笹山遺跡出土深鉢形土器57点（附871点）」（平成11年指定）を生み出しています。そして、開館41年目の令和2年6月1日に新館がオープンしました。本書をご高覧いただき、ご指導ご鞭撻いただければ幸いです。

十日町市博物館

目 次

I 館の運営	1
1. 来館者の状況	1
2. 博物館協議会	3
3. 新型コロナウイルス感染症対策	3
4. 予 算	4
II 事業の概要	5
1. 教育普及・展示事業	5
2. 資料収集・調査研究・保存対策事業	7
3. 縄文文化発信事業	8
4. 資料の貸出	10
5. その他の事業	10
6. 博物館友の会	10
博物館の沿革	11
新館 平面図	12
利用案内	13

例 言

1. 本書は、十日町市博物館の令和2年度の事業報告である。
2. 本書に掲載されている写真の無断掲載（転載）を禁じる。すべての著作権は十日町市博物館と撮影者・提供者に帰属する。
3. 本書の編集は菅沼 亘（学芸員）が行った。原稿の執筆は職員で分担し、文末に氏名を明示した。
4. 本年度の事業を行うにあたり、関係諸機関および多くの皆様から多大なるご協力をいただいた。個々に名前を記すことはできないが、お礼申し上げる。

（表紙写真：新館エントランスホール）

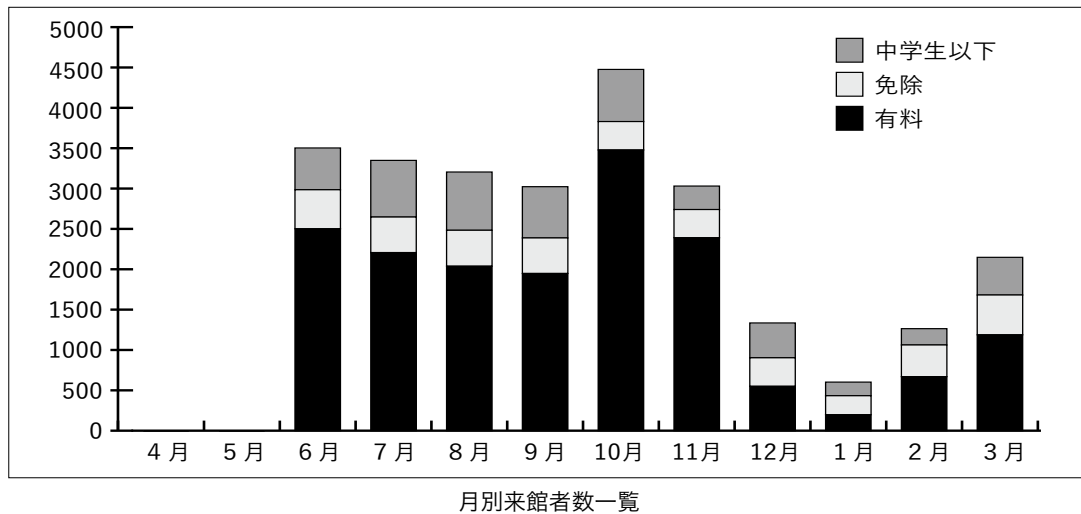
I 館の運営

1. 来館者の状況

①月別の推移

来館者数の月別推移は、以下のとおりである。中学生以下は無料、高校生以上が有料となっている。

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
開館日数	0	0	26	27	26	26	27	26	24	24	25	26	257
一 有 料	0	0	2,502	2,207	2,038	1,948	3,478	2,391	550	198	670	1,188	17,170
般 免 除	0	0	483	440	445	440	352	349	353	235	392	493	3,982
中学生以下	0	0	518	702	722	635	646	291	432	169	202	467	4,784
合 計	0	0	3,503	3,349	3,205	3,023	4,476	3,031	1,335	602	1,264	2,148	25,936



②視察と団体受け入れ状況

学校団体申込書、視察・見学受付票、入館料免除申請書、電話により受け入れた団体について、以下のとおりである（順不同）。

小 学 校	
1	吉田小学校 3・4・6年生
2	上野小学校 3・4・6年生
3	十日町小学校 3・6年生
4	水沢小学校 6年生
5	西小学校 3・6年生
6	東小学校 1・2年生
7	橘小学校 3・5・6年生
8	まつのやま学園 4・6年生
9	川治小学校 3年生
10	松代小学校 3・4・6年生
11	ふれあいの丘支援学校小学部 1・2年生
12	西小学校（給食運営委員会）
13	馬場小学校 2年生
14	田沢小学校 3・4年生
15	下条小学校 3年生
16	飛渡第一小学校
17	千手小学校 3年生
18	中条小学校 3年生
19	鏡島小学校 3年生
20	津南町立上郷小学校 6年生
21	三条市立栄中央小学校 6年生
22	燕市立島上小学 6年生
23	上越市立富岡小学校 6年生
24	長岡市立川口小学校 6年生
25	上越教育大学付属小学校 6年生
26	見附市立名木野小学校 6年生
27	南魚沼市五十沢小学校 3年生
28	南魚沼市立栃窪小学校 2・3年生

中 学 校	
1	下条中学校 2年生
2	中条中学校 1年生
3	吉田中学校 3年生
4	南中学校 1年生
5	中里中学校
6	南中学校 1年生
7	川西中学校 2年生
8	ふれあいの丘支援学校中学部
9	津南町立津南中学校 1年生
10	新発田市立川東中学校 3年生
11	長岡聾学校（中学部）
12	柏崎市立西山中学校 3年生
13	新潟市立島屋野中学校 2年生
14	燕市立小池中学校 2年生
15	新潟大学付属新潟中学校 2年生
16	新発田市立加治川中学校 2年生
17	上越市立春日中学校 2年生

市 内 保 育 園	
1	北越こども園
2	新座こども園
3	中里なかよし保育園
4	中条こども園
5	天使幼稚園
6	愛宕幼稚園

高校・専門学校・大学	
1	川西高等特別支援学校
2	十日町高校定時制
3	十日町看護専門学校
4	高田高校安塚分校 1・3年生
5	長岡聾学校（高等部）
6	新潟大学工学部建築学プログラム中村教授ツアー
7	長岡造形大学古美術研修旅行
8	新潟大学人文学部

子ども関連団体	
1	下条公民館下条っ子寺小屋塾
2	教育センターにこやかルーム
3	信濃川火焔街道博学連携交流学習会

小・中学校・その他の団体一覧

	そ の 他 団 体 名
1	吉澤織物(株)
2	下条地区振興会
3	上越市頸城自動車
4	共立観光十日町支店従業員
5	棚田地域振興法勉強会（十日町市）
6	長岡市老人クラブ連合会川口支部
7	十日町市議会 四つ葉会
8	南地域自治振興会
9	下条公民館
10	縄文についての勉強会（新潟市）
11	十日町市身体障がい者福祉センター
12	十日町市観光協会「日本遺産」勉強会
13	中越五市選挙管理委員会実務研修会
14	雪国観光圏大地の芸術祭ワーキンググループ
15	ワークセンターあんしん
16	エンゼル妻有
17	(株)ロボット 観光PR動画撮影（東京都）
18	郡市教育振興会社会科部研修会
19	新潟県知事一行
20	(株)MATCHA 県観光局取材（訪日観光客向け）
21	新潟県観光局副局長一行
22	環境省・中部地方環境事務所・信越自然環境事務所・群馬県みなかみ町
23	中野・山ノ内信毎会（長野県）
24	十日町情報館協議会
25	三条市建築設計協同組合
26	三条市生涯学習課
27	渋川市縄文学講座の会（群馬県）
28	鏡島小学校3年PTA
29	魚沼地区観光協会会長議
30	平成園
31	弥彦村文化財保護審議委員視察研修
32	三条市中央公民館
33	十日町市中魚沼郡小中教頭会秋季研修
34	下条老人クラブ
35	十日町市観光協会 取材
36	駐新潟大韓民国総領事一行
37	ワールド航空ツアー（東京都）
38	糸魚川市長者ヶ原考古館友の会
39	豊栄民涯共済会（新潟市）
40	HOME HOME（十日町市）
41	JR西日本北陸新幹線利用旅行会社視察研修（大阪府）
42	埼玉県東武地域労働福祉協議会
43	ハヶ岳縄文楽会・岡谷土師の会（長野県）
44	双樹会の集い（十日町市）
45	旅する新潟・上越コース ワールド航空サービス
46	タイムメディア（タイ向け）
47	津南いこいの家
48	川口支所地域振興課（長岡市）
49	あてま森と水辺の教室ポボラ
50	出雲崎町文化財調査審議会委員
51	トラマスはるかぜツアー（株）トラベルマスターズ（新潟市）
52	飛渡公民館
53	長岡ふるさと会
54	ミニトラベル（群馬県）
55	(株)宮内測量設計事務所

	そ の 他 団 体 名
56	新潟県健康福祉部十日町保健所
57	神話で結ぶご縁の会（糸魚川市）
58	(株)青柳
59	ユーラシア旅行社ユーラシアの旅（東京都）
60	鳥取県文化財局視察
61	東京エネルギー情報ネットワークス（東京都）
62	飯山線走る農家レストラン
63	台湾向けデジタルプロモーション撮影
64	柏尾懇話会（長野県）
65	樺野沢年輪クラブ（南魚沼市）
66	十日町市教育センター新採用・若手事務職員研修
67	信濃川火焰街道連携協議会日帰りバスツアー
68	新潟県文化振興課縄文ツアー（県内留学生）
69	三愛旅行社貸切バスで行く十日町ツアー（糸魚川市）
70	貝喰新田自治会（三条市）
71	クラブツーリズム関西
72	東証一部上場企業（トヨタ他東京都）
73	燕西蒲勤労者福祉サービスセンター
74	三条トラベル
75	高山婦人会
76	新潟県国際観光推進課（ベトナム向け）
77	新潟日報カルチャースクール
78	日本遺産モニターツアー（日本在住外国人向け）
79	越後湯沢温泉観光協会主催視察
80	越後魚沼ガストロノミー ワールド航空サービス
81	あてま高原リゾートベルナティオ宿泊者向けツアー
82	着物の集い（十日町市）
83	柏崎市博物館少年郷土探検団
84	青山さもの学院
85	日本遺産モニターツアー（首都圏ほか）
86	あてま高原リゾートベルナティオ
87	(株)日本旅行
88	十日町地域振興局地域振興課
89	大地の芸術祭総合ディレクター北川フラム アートフロントギャラリー職員
90	国立民族学博物館
91	エンゼル妻有
92	(株)良品計画
93	長岡市立科学博物館
94	新潟県観光協会プロガー
95	郡市小学校総合・生活サークル
96	内閣府職員ほか
97	新潟市歴史文化課広域観光課
98	(株)ネオス
99	(株)グリーンシグマ
100	大地の芸術祭実行委員会事務局
101	十日町市文化観光推進協議会
102	赤羽一嘉国土交通大臣一行
103	東武トップツアーズ(株)新潟支店
104	西遊旅行
105	須坂市議会
106	観光コンシェルジュ
107	茅野市商工会議所

その他の団体一覧

（興野 裕貴子）

2. 博物館協議会

協議会は年に2回開催され、各回の詳細は以下の通りである。委員は10名で、今年度は任期2年目にあたり、3名の委員が変更となった。

第1回：令和2年8月18日(火) 13:30～15:00 委員9名出席

- ・令和2年度博物館事業計画及び実施状況について
- ・新博物館の常設展示と開館記念企画展について

第2回：令和3年3月25日(木) 13:30～15:00 委員8名出席

- ・令和2年度博物館事業の実施状況について
- ・令和3年度事業計画について

氏 名	職業・所属団体（役職など）	備 考
宇都宮 正 人	十日町市博物館友の会 会長	委員長、社会教育
市 村 正 史	十日町市文化協会連合会 副会長	副委員長、社会教育
星 名 大 輔	十日町青年会議所 副理事長	社会教育（R2.5.1～）
南 雲 秀 彦	十日町市立西小学校 校長	学校教育
須 藤 高 志	初任者研修拠点校指導教員	学校教育（R2.5.1～）
庭 野 直 美	十日町市立飛渡第一小学校PTA会員	家庭教育
水 落 香央里	十日町市立下条小学校PTA副会長	家庭教育（R2.5.1～）
高 橋 和 広	人権教育・啓発推進計画策定委員	公募
滝 澤 青 葉	十日町農業協同組合 職員	公募
服 部 昌 子	愛宕幼稚園 保育職員	公募

博物館協議会委員一覧（任期：平成31年4月1日～令和3年3月31日）

3. 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、以下の対応を行った。

①入館等の制限

5月30日 新館オープン記念セレモニー中止

6月1日 新館オープン、新潟県民限定・団体利用休止・同時入館人数を100人程度に制限

6月19日～ 5都道県（北海道・東京都・千葉県・神奈川県・埼玉県）以外に居住する来訪者の入館制限解除

7月1日～ 居住地域による入館制限解除

8月1日～ 団体利用の制限緩和（40人程度の1組に限定して受入れ）

9月26日～11月8日 秋季特別展の企画展示室同時入室を20人に制限

②感染症対策

- ・非接触型体温計による入館時の検温
- ・風邪症状のある方及び37.0℃以上の発熱者入館制限
- ・入館時のマスク着用徹底
- ・館内の3密回避の呼びかけ
- ・入口及びトイレ出入口付近に手指消毒液の配置
- ・ポリエチレン製使い捨て手袋の配布
- ・ゴミ箱の撤去（ゴミの持ち帰り推奨）
- ・1日2回の巡回消毒の実施
- ・閉館後の体験型展示消毒の実施
- ・音声ガイド端末のフィルムラッピング（イヤホン貸出中止）
- ・受付に飛沫防止シールドを設置
- ・空調システムの外気導入最大化

（笛田 晃）



入口での検温・手指消毒



ポリエチレン製手袋

3. 予 算

令和２年度の予算は以下のとおりである。

(黒田 朋美)

歳入予算

(単位：千円、千円未満切り上げ)

款	項	目	説	明	当初予算額	補正額	補正後予算額
14款	使用料及び手数料	1項	使用料	7目 教育使用料			
5.	博物館入館料	5.	博物館入館料		12,744	0	12,744
14款	使用料及び手数料	1項	使用料	7目 教育使用料			
5.	博物館入館料	10.	施設使用者使用料		28	0	28
15款	国庫支出金	2項	国庫補助金	1目 総務費国庫補助金			
1.	総務費補助金	10.	博物館等を中核とした文化クラスター推進事業補助金		0	6,955	6,955
21款	諸収入	5項	雑入	2目 雑入			
7.	教育雑入	1.	私用電話料		1	0	1
21款	諸収入	5項	雑入	2目 雑入			
7.	教育雑入	2.	私用コピー使用料		1	0	1
21款	諸収入	5項	雑入	2目 雑入			
7.	教育雑入	3.	施設使用者電気料		28	0	28
21款	諸収入	5項	雑入	2目 雑入			
7.	教育雑入	53.	物品使用料		1,000	0	1,000
21款	諸収入	5項	雑入	2目 雑入			
7.	教育雑入	66.	博物館物品販売手数料		1,000	0	1,000
21款	諸収入	5項	雑入	2目 雑入			
7.	教育雑入	67.	博物館物品販売収入		0	1,500	1,500
21款	諸収入	5項	雑入	2目 雑入			
7.	教育雑入	70.	古文書講座資料代		40	0	40
21款	諸収入	5項	雑入	2目 雑入			
7.	教育雑入	98.	その他雑入		1	0	1
計					14,843	8,455	23,298

歳出予算

(単位：千円、千円未満切り上げ)

節		当初予算額	補正額	補正後予算額
1.	報酬	6,559	80	6,639
3.	職員手当等	257	0	257
7.	報償費	530	△150	380
8.	旅費	680	△99	581
10.	需要費	15,857	920	16,777
11.	役務費	3,030	80	3,110
12.	委託料	13,809	8,362	22,171
13.	使用料及び賃借料	733	0	733
14.	工事請負費	0	303	303
18.	負担金ほか	46	0	46
計		41,501	9,496	50,997

事業別歳出予算内訳

(単位：千円、千円未満切り上げ)

事業名	当初予算額	補正額	補正後予算額
一般経費	5,141	131	5,272
旧博物館施設維持管理経費	2,949	0	2,949
博物館施設維持管理経費（除排雪経費含む）	18,972	1,036	20,008
教育普及・展示事業	5,039	△467	4,572
博物館開館事業	4,571	△1,445	3,126
資料収集・調査研究・資料保存対策事業	3,996	△194	3,802
縄文文化発信事業	833	0	833
文化観光拠点施設キャッシュレス化事業（文観計画・補助）	0	2,840	2,840
無形文化資源データ（映像等）化事業（文観計画・補助）	0	6,996	6,996
十日町市博物館所蔵文化遺産体験事業（文観計画・補助）	0	599	599
計	41,501	9,496	50,997

II 事業の概要

1. 教育普及・展示事業

①教育普及事業

博物館講座

本講座は市民を対象としたもので毎年6月に行われている。今年度は、縄文をテーマとして8月の土曜日（午後）に全3回シリーズで実施の予定であったが、首都圏における新型コロナウイルス感染症の再拡大を受け、急きょ中止とした。令和3年8月に延期して実施の予定である。

古文書入門講座

本講座は古文書解読の初心者を対象としたもので、市内の史料をテキストにして古文書に親しむと共に、郷土の歴史を学ぶことを目的としている。昨年度に続き、講師は林 悦郎氏（博物館友の会・古文書研究グループ）にお願いした。今年度は「御検地水帳」、「五人組帳」、「庚申夜話見聞録」、「峠道造直奉加帳」などをテキストとしている。7月から令和3年3月の土曜日（隔週・午前）に行われ、回数は全15回である。今年度の受講生は計10人、内2人が新規の申し込み、その他は昨年度からの継続であった。また、受講生よりテキスト代（2,000円）を徴収している。

子ども博物館

本事業は、市内の小学4～6年生を対象とした体験教室である。今年度は、8月1日（土）に「鶏頭冠突起作り」、12月12日（土）には「縄文クッキーを作ってみよう」を実施した。各回とも定員10名（事前申込）、参加費（500円・材料費）を徴収している。参加者は計14人であった。新型コロナウイルス感染症対策のため、保護者の参加は不可とした。鶏頭冠突起作りでは、オープン陶土を使用している。



縄文クッキー作り

②展示事業

新館オープン記念・夏季企画展「国宝・笹山遺跡出土深鉢形土器のすべて」（日本博参画事業）

本展は、新館のオープンを記念して開催された。会期は6月1日（月）から8月23日（日）の84日間、観覧者数は計9,645人である。常設展示室と企画展示室の2会場とし、企画展示室では会期を前期（7月12日まで）と後期（7月14日から）に分け、途中で土器の入れ替えを行った。常設展示室で計9点（深鉢8・浅鉢1点）、企画展示室では計53点（前期：深鉢24・浅鉢2点／後期：深鉢25・浅鉢2点）を展示している。土器の入れ替えを行ったが、国宝に指定されている土器すべての展示は、平成16年（2004）の中越大震災以降、初めての機会であった。



ウォールケース①



独立ケース



ウォールケース②

新館オープン記念・秋季特別展「縄文の遺産―雪降る縄文と星降る縄文の競演―」（日本博参画事業）

本展は、博物館友の会と信濃川火焰街道連携協議会との共催で開催された。会期は、9月26日(土)から11月8日(日)の44日間、観覧者数は計6,097人である。

新潟県と長野・山梨県では、それぞれ縄文をテーマとしたストーリー「なんだ、コレは！信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化」と、「星降る中部高地の縄文世界―数千年を遡る黒曜石鉾山と縄文人に会う旅―」が日本遺産の認定を受けている。縄文時代中期に3県が位置する中部地方では、新潟県の火焰型土器や長野・山梨県の水煙文土器など、過剰なまでに装飾が施された土器が作られていた。

本展では、これら3県から出土している土器、土製品、石製品などの優品（国宝・重要文化財を含む）を集め、中部地方に華開いた独自の縄文文化を紹介した。展示構成は、①「雪降る縄文の世界―信濃川流域の縄文文化―」、②「星降る縄文の世界―中部高地の縄文文化―」である。①では、国宝・火焰型土器のほか、新潟県内出土の火焰型・王冠型土器を展示した。②では、国宝「土偶」（縄文のビーナス・棚畑遺跡出土・茅野市所蔵）、重文「人体文様付有孔罎付土器」（鋳物師屋遺跡出土・南アルプス市教育委員会所蔵）、重文「人体文土器」（一の沢遺跡出土・山梨県立考古博物館所蔵）、長野県宝「水煙渦巻文深鉢」（曾利遺跡出土・井戸尻考古館所蔵）などを展示している。国宝「縄文のビーナス」実物の新潟県内での公開は、今回が初めてであった。



特別展チラシ



特別展の展示状況

10月17日(土)の午後には、山下裕二氏（明治学院大学文学部芸術学科教授）を招いて、記念講演会「日本美術史における縄文的なるもの」を開催し（会場：十日町情報館・視聴覚ホール）、57人の聴講者が参集した（事前申込制）。また、Zoomを利用してネット配信（利用者31名）すると同時に、博物館（講堂）においてパブリック・ビューイングを行った。なお、ミュージアムショップでは特設コーナーを設置し、展示品に関連したグッズを販売している。

冬季企画展「マジョリカお召と黒絵羽織」

本展は、博物館友の会との共催で開催された。会期は、令和3年2月13日(土)から3月28日(日)の44日間、観覧者数は2,973人である。

昭和34年(1959)に彗星のごとく登場したマジョリカお召と、その後、PTAルックと呼ばれて一世を風靡した黒絵羽織、昭和30年代後半から50年代にかけて大ヒット商品となった2つの十日町織物について、館蔵資料を中心に紹介した。本展では、博物館友の会・きもの研究グループによる調査成果を活用し、展示の準備にもグループから協力を受けている。同グループは平成25年(2013)に発足



企画展の展示状況



企画展チラシ

し、博物館収蔵の着物資料の整理を手伝うかたわら、銘仙、マジョリカお召、黒絵羽織など十日町織物の伝統と洗練された技術を後世に永く伝えるべく、活動を続けている。本展は、新しく生まれ変わった当館の基本理念「市民・来館者と共に考え、活動し、成長する博物館」を体現するものとなった。

特設展示「昔の道具」

市民から寄贈された昭和の道具類を集めた。会期は、12月19日(土)から令和3年1月24日(日)である。道具を使用されていた場面ごとに分けて展示し(日常生活、学校・職場、趣味・娯楽)、現在では見ることが難しい昭和の暮らしを紹介した。3年生の総合学習に伴う、小学校の利用が多くあった。

(菅沼 亘)



昔の道具展

③まちの文化歴史コーナー

十日町市市民交流センター(愛称: 分じろう) 1階の「まちの文化歴史コーナー」(愛称: HAKKAKE)において、博物館収蔵資料の展示を行った。今年度は以下の日程で収蔵資料を展示した。

原水無遺跡・森上遺跡・新座原D遺跡の石で作った斧(4/10～6/8)、干溝遺跡出土の紡錘車(6/10～8/3)、葎沢発見のカルカロドン歯の化石(8/5～10/12)、蕪木元昭家資料のイッカクの牙(10/14～12/7)、笹山遺跡出土の珠洲焼の壺(12/9～2/8)、中島遺跡出土の縄文土器と蓋(2/10～4/5)である。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、イベントが延期または中止になったため、まちなか国宝展示は実施しなかった。

(笠井 洋祐)

④博学連携

現代の私たちは歴史的文化と自然の中でどのようにふるまい、生きていくべきだろうか。小学校6年生児童の総合学習で、その根源を縄文文化から学びとってもらう活動を行っている。

主 催: 信濃川火焰街道連携協議会

参加校: 長岡市立関原・深沢、小千谷市立吉谷、十日町市立中条・鑑島小学校の6年生(計147名)

活 動: 学習交流会(9/14: 十日町市博物館・同総合体育館)、土器作り(9/10・11/5: 中条小学校・笹山遺跡広場・縄文館、6/15・7/16: 鑑島小学校・同前)、縄文子どもフォーラム2020(11/24: 新潟県立歴史博物館)、巡回展「子ども縄文研究展2020」(2/12～21: 十日町情報館)

(阿部 敬)

⑤博物館実習

山形県立米沢女子短期大学より、学生1人(日本史学科)を受け入れた。期間は、7月31日(金)から8月6日(木)である。実習では、考古および古文書資料の整理作業のほか、子ども博物館の補助を行った。

(菅沼 亘)

2. 資料収集・調査研究・保存対策事業

①資料の収集

博物館では、市民等から十日町市に関係する民具・古文書・写真等の資料の寄贈を受け付けている。今年度は36件(資料番号15044～15232、令和3年3月31日現在)となった。

主な資料は、スッポン、コスギ、ロウソクタテ、ゼンマイ採り用着物、道仕切りの木札、原町五旒旗、松代地域の民話音声資料(カセットテープ)などの民俗・民具資料、黒絵羽織、紅型・小紋等の型染め資料、マジョリカお召・見本帳などの着物資料、雪景色・文化財・市内風景・祭りなどのポジフィルム及びプリントなど写真資料、飯山線開設関係文書・古文書・古典籍などの歴史資料、十日町小唄水墨画(中山晋平書・水谷八重子画)及び掛軸類など美術資料、十日町森林総合研究所観測記録及び中里養魚センター観測記録などの記録資料である。

(高橋 由美子)

②資料の燻蒸作業

旧館の収蔵庫に収納されている、重要文化財「越後縮の紡織用具及び関連資料」と「十日町の積雪期用具」を新館の民俗収蔵庫に移動するため、7月と12月に燻蒸作業を行った。作業は専門業者に委託している。7月は旧館2階の収蔵庫、12月には旧館1階の展示室を使用して包み込み（幅3×奥行4×高2m）による燻蒸を行った。また、7月には市指定文化財「群馬図屏風 雲谷等顔筆 六曲一双」（十日町市所蔵）も合わせて燻蒸している。同屏風については、これまで旧松之山小学校（現まつのやま学園）で管理・保管していたが、劣化が著しく、保存環境に適した場所での保管が必要であるため、燻蒸後は新館の収蔵庫に収納することとした。（菅沼 亘）

3. 縄文文化発信事業

令和2年6月1日に新館がオープンしたが、コロナ禍の影響により開館セレモニーの中止や入館制限など、積極的な縄文文化の発信が困難な年であった。

①野首遺跡出土品が県文化財指定

「野首遺跡出土品」（員数1,290点）が令和2年3月27日付新潟県報の新潟県教育委員会告示第3号により新潟県文化財として指定された。

②国宝・火焰型土器モニュメント活用

当館では東京国立博物館と大塚オーミ陶業との共同研究の成果である三次元計測データを利用し、地方創生推進交付金を活用して、国宝・火焰型土器の高精細レプリカを作成してきた。3か年事業の最終年である令和元年度には、鶏頭冠突起をかたどった大型のモニュメントを製作している。モニュメントは正面入口の脇に設置され、人が座るベンチとしての機能も有している。友人同士や家族連れがモニュメントの前で写真撮影し、Instagramなどに投稿しているようである。まさに博物館の象徴として、「映える」スポットになっている。



国宝・火焰型土器モニュメント

③国宝・火焰型土器を含む特殊切手「国宝シリーズ 第1集（考古資料）」販売

平成28年から縄文の国宝が出土している自治体の首長と連携して、縄文国宝の記念切手の発売を日本郵便(株)に要望してきた。5年目にしようやくこれが実現し、令和2年5月29日(金)から1シート680円で800万枚（80万シート）が全国の郵便局で発売された。

④新館オープン記念・夏季企画展「国宝・笹山遺跡出土深鉢形土器のすべて」

期間：6月1日(月)～8月23日(日)

会場：企画展示室

新館オープン記念事業として、「国宝・笹山遺跡出土深鉢形土器のすべて」と題し、国宝指定の笹山遺跡出土深鉢形土器・全57点を、会期の前半と後半で入れ替えて展示した。また、新館オープンと企画展を記念して、魚沼中条郵便局のご厚意により6月1～3日に臨時出張所を開設し、国宝特殊切手と火焰型土器フレームはがきの販売、火焰型土器風景印の押印を行った。合わせて国宝特殊切手の発売と新館オープン



国宝特殊切手のカバー台紙

を記念して、オリジナルのカバー台紙を作成し無料で配布した。

⑤新館オープン記念・秋季特別展「縄文の遺産―雪降る縄文と星降る縄文の競演―」

期間：9月26日(土)～11月8日(日)

会場：企画展示室

新館オープン記念の特別展として、長野県茅野市所蔵の国宝「縄文のビーナス」をはじめ、重要文化財「人体文様付有孔罎付土器」や長野県宝「水煙渦巻文深鉢」など、新潟県初公開の資料が多数展示された。会期中に俳優の井浦新さんが、日曜美術館・新春特別番組のロケで訪れるなど、6千人を超える観覧者数となった。



国宝「縄文のビーナス」

⑥秋季特別展記念講演会「日本美術史における縄文的なるもの」

期日：10月17日(土)

会場：十日町情報館・視聴覚ホール(サテライト会場：博物館・講堂)

講師：明治学院大学文学部芸術学科教授 山下裕二 先生

以前から国宝・火焰型土器を著書などで紹介していただいた、山下裕二先生をお招きして講演会を行った。コロナ禍の中、当初は博物館・講堂において定員を制限して開催する予定であったが、すぐに定員に達したため、会場を急ぎよ十日町情報館・視聴覚ホールに



秋季特別展記念講演会

変更した。また、当日参加できない方のため、はじめてZoomのWebnerを使いインターネット配信を行った。配信の一部は博物館・講堂において聴講できるよう対応している。インターネット配信(登録者数31名)と講堂での聴講(約20名)を合わせて、100人を超える参加者があった。

⑦「十日町縄文ツアーズ・モニターツアー」実施

期日：11月4日(水)

会場：十日町市博物館、笹山縄文館

令和元年度・文化庁補助事業「Living History 生きた歴史体験プログラム事業」に採択されたことを受けて、令和2年度はツアーを造成し募集する予定であったが、コロナ禍の中、ツアーを実施することができなかった。そのため、文化庁や観光事業者などを招聘してモニターツアーを実施し、来年度以降の課題を検討した。



笹山遺跡・復元竪穴住居

⑧「新館オープン記念フレーム切手」発売

期間：令和3年2月16日(火)～

販売場所：魚沼・十日町地域の郵便局

国宝特殊切手の発行を契機に、新館オープン記念フレーム切手を作成した。国宝・火焰型土器No.1のほか、野首遺跡出土品や博物館の展示品で構成されている。また、文化庁から認定を受けた日本遺産「究極の雪国とおかまち」の記念フレーム切手も発売され、2月12日に日本郵便(株)から贈呈式が行われた。2つのフレーム切手は博物館ミュージアムショップで販売している。

(佐野 誠市)



新館オープン記念フレーム切手

4. 資料の貸出

①実物資料の貸出

貸出状況は以下のとおりである。国宝・笹山遺跡出土品の貸出は1件であった。(菅沼 亘)

貸 出 先	資 料 名 (点数)	目 的 (展覧会名・会期など)
津南町なじょもん	野首遺跡土器16点、笹山遺跡土器4点、森上遺跡土器1点、計21点	秋季企画展「千曲川－信濃川流域の縄文文化・火燐土器前夜の世界－」(9/5～11/3)
府中市美術館	野首遺跡火燐型土器1点	「日本の美を貫く 炎の筆〈線〉」展 (9/19～11/23)
長岡市馬高縄文館	赤羽根遺跡土器5点、干溝遺跡土器1点、清津宮峯遺跡土器1点、計7点	秋季特別展「大武遺跡と縄文前期の土器文化」(9/26～11/23)
茨城県立歴史館	国宝・笹山遺跡火燐型土器(No.3・9)2点、森上遺跡火燐型土器ほか4点、寿久保遺跡大珠1点、計7点	特別展「Jomon Period－縄文の美と技、成熟する社会－」(10/10～11/29)
(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団	国宝・笹山遺跡火燐型土器(No.6)レプリカ1点	常設展示室での展示 (8/1～R3.3/25)
新潟県立歴史博物館	アングイン衣服3点	体験事業 (11/1～R3.3/31)
津南町教育委員会	干溝遺跡土器1点、久保寺南遺跡土器レプリカ1点、計2点	レプリカ製作 (12/10～R3.3/19)
国立民族学博物館	越後縮・マジョリカ・黒絵羽織ほか	特別展「復興を支える地域の文化－3.11から10年－」(R3.3/4～5/18)

実物資料の貸出一覧

②写真資料の貸出

写真資料の貸出件数は計223件(3月現在)、主な貸出状況は以下のとおりである。国宝・笹山遺跡出土火燐型土器をはじめとする考古資料が7割以上を占めている。使用目的では教材・テストなど教育関連が最も多く、近年はTV番組や雑誌での使用が増加している。(引間 佳子)

貸 出 先	出 版 物	貸 出 資 料	備考
光村教育図書 株式会社	あかねこ夏スキル 社会科ページ	国宝・笹山遺跡出土 深鉢形土器	教 材
株式会社 アフロ	わからないをわかるにかえる中学歴史		書 籍
有限会社 ユーフォリアファクトリー	TRANSIT 48号		雑 誌
株式会社 むしか	るるぶびじゅチューン!		イベント
NHKエデュケーショナル	イベント「びじゅチューン! ライブin真夏の能楽堂2020」		映像配信
	ウェブ「チコちゃんといっしょに課外授業」		
明治図書出版 株式会社	よくわかる国語の学習3年	無官太夫熱盛(児玉輝彦筆)	書 籍
株式会社 テレビ朝日	戦国大名総選挙	越後縮	TV番組

写真資料の貸出一覧(主要なもの)

5. その他の事業

・雪文化三館提携事業

雪文化三館パンフレットをリニューアルし、5,000部印刷した。3館相互の入館者数増を図り、3館提携事業を広く周知するため、スタンプラリー及び2割引きの優待付きとし、観光施設等に配布した。スタンプラリーについては、3館すべての押印が終了した来館者に記念品を贈呈している。令和2年度の当館でのスタンプラリー達成者は3名であった。(石原 正敏・興野 裕貴子)

6. 博物館友の会

博物館友の会は昭和54年に発足し、令和2年度で41年目を迎えた。会員は、令和3年2月末現在で約600名である。植物・古文書・いしぶみ・歴史・方言・考古・きもの・民俗・近代史(世界遺産を学ぶ会)の9つの研究グループが、研究活動を行っている。

今年度の主な活動は以下のとおりである。4月の総会、6月の文化財めぐり、7月の庚申供養祭、2月の雪まつり・はくぶつかん広場は、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となった。

- 6月27日(土) 「火焰」137号発行
 巻頭言(博物館友の会・宇都宮会長)、新博物館開館特集、令和2年度の博物館及び友の会の事業概要のほか、3月7日(土)に開催予定であったが延期となった研究グループ発表会の発表概要などを収載。
- 8月21日(金) 研究グループ代表との懇談会
- 9月12日(土) 「火焰」138号発行
 「究極の雪国とおかまちー真説!豪雪地ものがたりー」の日本遺産認定、秋季特別展特集のほか、植物研究グループ活動紹介などを収載。
- 10月14日(水) 第90回文化財めぐり
 “群馬の新名所を訪ねる旅
 ～完成したハッ場ダム周辺見学・伊香保の新名所「法水寺」など～”
 参加費5,000円、参加者37名
- 12月5日(土) 古文書研究・民俗研究・いしぶみグループ合同研修会
- 2月13日(土) 「火焰」139号発行
 巻頭言(茅野市尖石縄文考古館・守矢館長)、3研究グループ合同研修会
 「上杉謙信と戦国時代の魚沼」の報告、秋季文化財めぐり報告などを収載。
- 3月13日(土) 研究グループ発表会 (石原 正敏・笛田 晃)

〈博物館の沿革〉

- 昭和51年(1976) 文化財収蔵庫竣工
- 昭和53年(1978) 旧博物館竣工
- 昭和54年(1979) 旧博物館オープン(4/27)、博物館友の会設立(4/14)
- 昭和60年(1985) 十日町市史編さん室設置(平成8年まで)
- 昭和61年(1986) 「越後縮の紡織用具及び関連資料2,098点」重要文化財指定
- 平成3年(1991) 「十日町の積雪期用具3,868点」重要文化財指定
 旧博物館・考古展示室オープン(増築)
- 平成4年(1992) 笹山遺跡出土品の重要文化財指定
 重文・火焰型土器No.1が「古代の日本展」(ワシントンD.C.)へ出品
- 平成6年(1994) 旧博物館・常設展示室リニューアルオープン
- 平成10年(1998) 重文・火焰型土器No.1が「縄文展」(パリ)へ出品
 旧博物館・考古展示室(一部)を改装
- 平成11年(1999) 「新潟県笹山遺跡出土深鉢形土器57点(附871点)」国宝指定
 梅原 猛氏が名誉館長に就任(平成22年まで)
- 平成13年(2001) 国宝・火焰型土器No.1の愛称「縄文雪炎」、マスコットキャラクター
 「ほのおまる」誕生
 国宝・火焰型土器No.1が「古代日本の聖なる美術展」(大英博物館)へ出品
- 平成16年(2004) 中越大震災発生(国宝が一部破損)
- 平成17年(2005) 新十日町市誕生(周辺町村と新設合併)
- 平成22年(2010) 国宝・火焰型土器No.6が「日本の美5000年展」(イスタンブール)へ出品
- 平成26年(2014) 「新十日町市博物館基本構想(案)」策定
- 平成27年(2015) 「新十日町市博物館基本計画」策定

- 平成28年（2016） 新館基本・実施設計に着手
- 平成29年（2017） 実施設計の終了、新館建設工事に着手
 国宝・火焰型土器No.1が「国宝展」（京都国立博物館）へ出品
- 平成30年（2018） 国宝・火焰型土器No.6が「縄文ー1万年の美の鼓動ー」展（東京国立博物館）
 国宝・火焰型・王冠型土器（No.5・16）がジャポニスム2018「深みへ展」
 国宝・火焰型土器No.1がジャポニスム2018「縄文展」（パリ）へ出品
- 平成31・令和元年（2019） 新館本体建物の竣工、展示工事に着手
- 令和2年（2020） 展示工事の竣工、新館オープン（6月1日）



旧博物館の竣工（1978年）

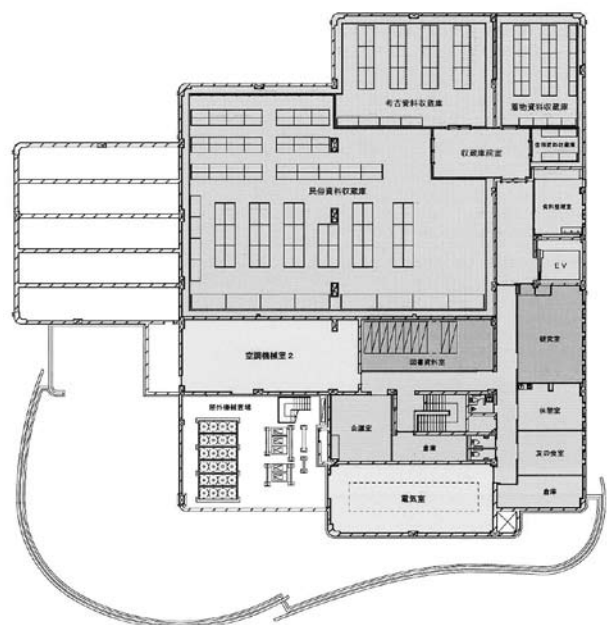


新博物館の竣工（2019年）

〈新館 平面図〉



1 階



2 階

〈利用案内〉

- 開館時間 9:00～17:00（入館は16:30まで）
- 入館料 一般500円（団体20人以上400円）
中学生以下無料
＊特別展は別途料金が必要
- 休館日 毎週月曜日（国民の祝日の場合は翌平日）
年末年始（12月28日～1月3日）
- 所在地 〒948-0072
新潟県十日町市西本町1-448-9
TEL: 025-757-5531 FAX: 025-757-6998
e-mail: museum.10@city.tokamachi.lg.jp
<https://www.tokamachi-museum.jp/>
- 交通 ほくほく線・JR飯山線・十日町駅から徒歩10分
関越自動車道・六日町ICから車30分
関越自動車道・越後川口ICから車30分
北陸自動車道・上越ICから車80分
上信越自動車道・豊田飯山ICから車80分
- 駐車場 第1：普通車16台・障がい者用2台、第2：普通車26台・大型バス3台
- サービス 音声ガイド貸出（日本語・英語：有料）、ミュージアムショップ、自動販売機
授乳室、多目的トイレ、ベビーカー・車椅子貸出（無料）、コインロッカー（無料）
- その他 館内撮影可能（企画展示室除く、三脚・フラッシュ使用禁止）
館敷地内全面禁煙、展示室内飲食禁止（アメ・ガム含む）



〈令和2年度 博物館職員〉

館長	佐野 誠 市	会計年度任用職員	田 村 薫（調査研究員）
副館長	石 原 正 敏（学芸員）	〃	引 間 佳 子
副参事	笛 田 晃（業務係長）	〃	春 川 奈 嘉 子
〃	菅 沼 亘（学芸員）	〃	山 田 ま り
〃	村 山 歩（7/12まで）	〃	宮 澤 早 記（育児休暇）
主 査	高橋 由美子（学芸員）		
〃	笠 井 洋 祐（学芸員）		
〃	阿 部 敬（学芸員）		
〃	興野 裕貴子		
主 任	若 月 辰 則（技 師）		
〃	黒 田 朋 美		
主 事	田 村 典 子		

十日町市博物館 年報 第7号

編集・発行：十日町市博物館

〒948-0072 新潟県十日町市西本町1-448-9 TEL:025-757-5531 / FAX:025-757-6998
URL: <http://www.tokamachi-museum.jp/> / e-mail: museum.10@city.tokamachi.lg.jp
発行日：令和3年(2021)3月31日 印刷：株式会社 滝沢印刷